

令和5年1月27日

狛江市議会議長  
谷田部 一之 様

建設環境常任委員会  
委員長 岡 村 し ん  
(公印省略)

## 建設環境常任委員会所管事務調査報告書

本委員会の所管事務について調査した結果を、次のように報告いたします。

### 記

#### 1 調査事件名

上下水道事業及び下水道による浸水対策について

#### 2 調査目的や視察などこれまでに取り組んできた経過

令和元年東日本台風では狛江市でも内水氾濫により多くの被害が出たことから、被害の軽減を図るため下水道による浸水対策の強化を進めていく事を目的に調査を行うこととした。

資料調査では、令和元年東日本台風において甚大な被害が発生した多摩川流域における今後の治水対策の取組として、国・都・県及び多摩川流域の狛江市を含む市区などが連携し、社会経済被害の最小化を目指すために取りまとめた多摩川緊急治水対策プロジェクトや、令和元年東日本台風において被害があった川崎市・世田谷区・大田区の対策を調査した。

狛江市の取り組みでは、これまでの浸水対策や下水道総合計画、市民向けの広報の種類と方法、また、調査中の令和4年7月に出された令和元年東日本台風（台風第19号）に伴う浸水被害への市の取り組みに関する市民説明会資料についても調査した。

現地視察では、世田谷区と川崎市を調査した。世田谷区では、公共施設や民間施設の雨水流出抑制対策の基準が狛江市よりも高い独自の基準を定めていることや、大規模な雨水貯留施設を整備していること、川崎市への視察では令和元年東日本台風と同程度の雨量で被害を出さないために短期・中期・長期対策を定めていることが分かった。また、ポンプゲートをつける予定の宇奈根排水樋管を視察した。

#### 3 狛江市のこれまでの取り組みと今後の取り組み

市民説明会の資料のこれまでの浸水被害軽減に向けたその他の取り組みについては別紙資料参照。

#### ソフト対策

別紙資料1「狛江市の取り組み」参照。

#### 4 課題の整理

これまで調査をしてきた結果、令和元年東日本台風と同程度の豪雨時に被害を出さないためには、さらなるハード対策，ソフト対策の強化が必要となる。そのためにも、下水道総合計画などの浸水対策を早期に改定する必要がある。また、所管外になる、防災教育・防災訓練の充実、水害時の訓練強化、戸建て住宅とマンションの止水板設置の促進（補助金については安心安全課）、変電設備の浸水対策についても進めていく必要がある。

#### 5 提案内容

市が現在実施している短期対策（3 狛江市のこれまでの取り組みと今後の取り組み参照）や計画策定した中長期対策の進捗状況、多摩川及び野川に関する国や都の計画を考慮した上で下水道総合計画の浸水対策として提案する。

##### （1）ハードの整備

###### ① 整備

令和元年東日本台風では内水氾濫が発生した。同程度の雨量の時に被害を発生させないための新たなハード対策として、雨水を確実に排水するために、調査中に決定された狛江市で予定している強力な排水ポンプの設置については、早期に実現すること。特に猪方排水樋管流域については、用地確保を早期に行い、六郷樋管流域と同時期に設置できるようにすること。同時に、今後の豪雨の激甚化の危険に備え、雨水をためる力を強化するために、雨水貯留施設の整備、変電設備の浸水対策を検討すること。

###### ② 改善

現状の取り組みの改善点としては、現在も行われている下水道整備の促進（具体的にはどのようなものか）、雨水浸透柵設置のさらなる促進と、学校の建て替え時期に合わせ雨水貯留槽設置を進めること。

また、公共施設や民間施設の雨水流出抑制対策基準を世田谷区並みに強化すること。

##### （2）ソフト対策

###### ① 計画

ソフトの対策では、下水道に関する総合的な計画である下水道総合計画は前回改定から時間が経過している。今回の提案も生かし早期の改定をすること。また、多摩川・野川・内水ハザードマップの重複エリアや対応策の整理を担当課で連携して行うこと。

###### ② 市役所内や関係機関との情報共有

市の総務部、都市建設部、環境部などの関係各部や国や東京都の関係機関等と連携し、今後の開発行為の中で、雨水貯留施設や止水板整備、変電設備の浸水対策など水害を意識した街づくりのさらなる推進を行うこと。

###### ③ 市民への情報提供の強化

災害対策は市民の協力も不可欠になってくる。ハザードマップ配布時に、止水板助成や雨水タンク助成など他の施策も併せて紹介するなど、情報提供の強化をすること。また、水防訓練や市民祭りの時などイベントも活用し、下水道の仕組みや課題、雨水浸透柵や雨水タンクの設置を含め、下水道の大切さを周知するなど、雨水処理の重要性を広く市民に周知すること。さ

らに、市民が楽しく水害や下水道の仕組みなどについて学べる仕組みを検討すること。

実際の災害時には、LINEなどのSNSも活用し、市民に対しリアルタイムの情報提供を行うこと。

### (3) 国や都に対しての要望

国や東京都に対しても積極的に要望を伝えていく必要がある。今回の内水氾濫の一番の原因は多摩川の水位上昇にあり、今後の浸水被害防止へ河川の土砂掘削を定期的に行うことを国に対して要望すること。また、野川における豪雨対策の推進や市が実施する排水ポンプの設置、貯留施設整備への東京都の補助率を現在の2.5%から25%に拡充することを東京都へ要望すること。

## 6 調査の経過

### ○ 委員会開催日（合計14回開催）

令和3年6月11日	所管事務調査事項を決定
令和3年7月30日	調査項目を決定、今後の調査に必要な資料の要求
令和3年9月14日	資料に基づき市側より説明、意見交換、資料の要求
令和3年10月29日	資料に基づき市側より説明、意見交換、視察先の検討及び委員派遣の決定
令和3年12月14日	調査項目の詳細について意見交換、委員派遣決定の報告
令和4年1月31日	現地調査の感想及び意見交換、資料に基づき市側より説明、調査項目の詳細について意見交換
令和4年3月11日	資料に基づき市側より説明、意見交換
令和4年3月30日	委員派遣の決定
令和4年6月13日	現地調査の感想及び意見交換
令和4年7月29日	調査報告書作成に向けての協議
令和4年9月15日	資料に基づき市側より説明、調査報告書作成に向けての協議
令和4年10月31日	調査報告書作成に向けての協議
令和4年12月12日	調査報告書作成に向けての協議
令和5年1月27日	調査報告書決定

### ○ 委員派遣

令和4年1月11日	世田谷区二子玉川分庁舎に調査のため委員4人を派遣
令和4年4月12日	川崎市宇奈根排水樋管に調査のため委員7人を派遣